

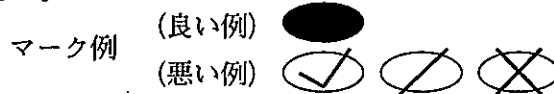
令和5年度（令和4年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）

小学校 中学校 養護教諭

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○	○	○	○	○
●	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○

記入例

(受審番号12345の場合)

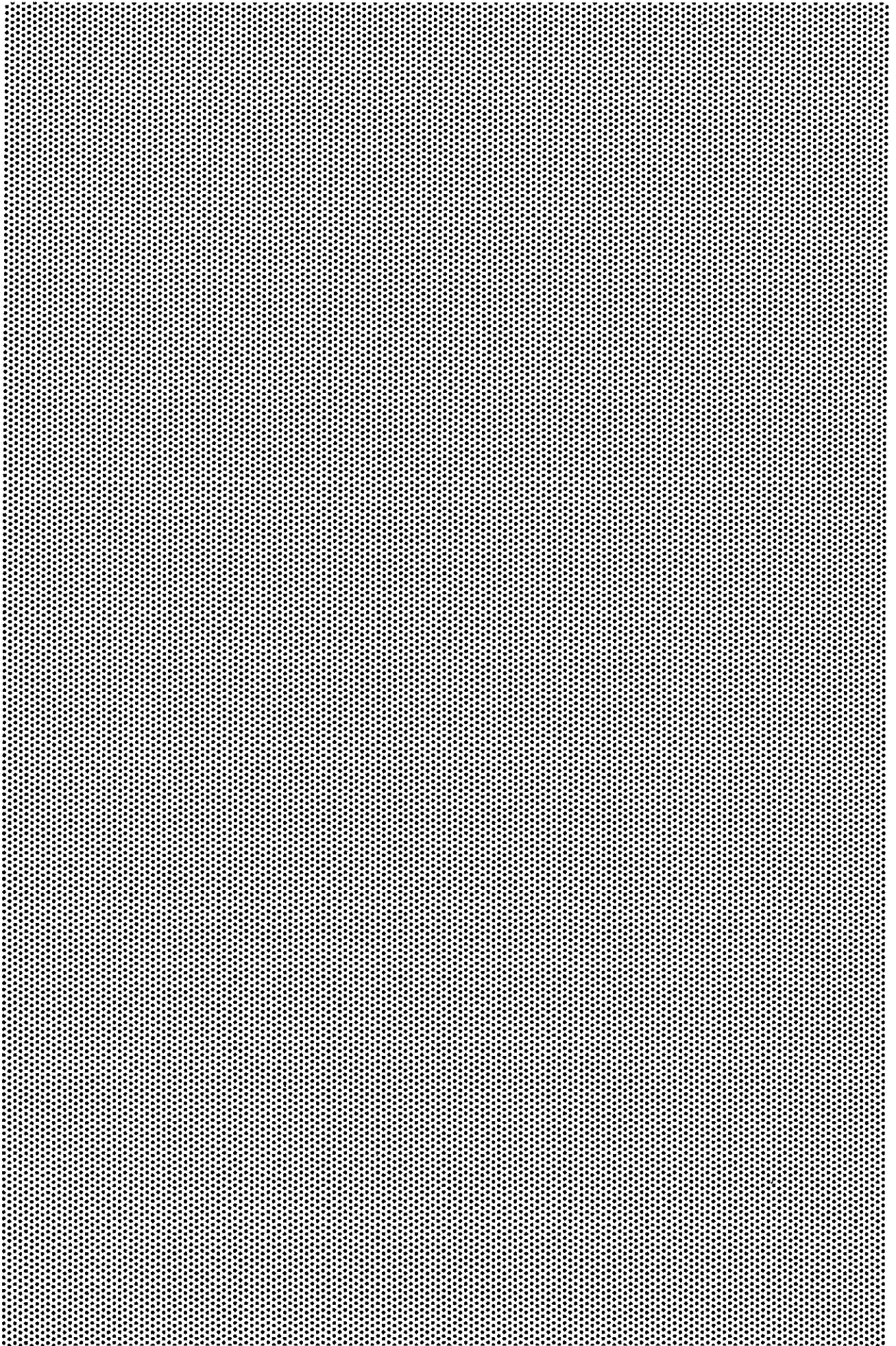
- 4 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の(例)のようにアの解答欄の b をマークしてください。

(例)

ア	a	●	c	d	e	○	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 5 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



第1問 次の1～3の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、学校保健安全法（昭33. 4. 10法律第56号）の条文である。文中の（ ① ）～（ ④ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

第1条 この法律は、学校における児童生徒等及び（ ① ）の健康の保持増進を図るため、学校における（ ② ）に関し必要な事項を定めるとともに、学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における（ ③ ）に関し必要な事項を定め、もつて学校教育の円滑な実施と（ ④ ）の確保に資することを目的とする。

	①	②	③	④
a	教員	安全管理	保健管理	その成果
b	教員	保健管理	安全管理	学力向上
c	職員	保健管理	安全管理	その成果
d	職員	安全管理	保健管理	学力向上
e	教員	安全管理	保健管理	学力向上

- 2 次の文は、学校保健安全法（昭33. 4. 10法律第56号）の条文である。文中の（ ① ）～（ ④ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

第9条 養護教諭その他の職員は、相互に連携して、（ ① ）又は児童生徒等の（ ② ）の日常的な観察により、児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な（ ③ ）を行うとともに、必要に応じ、その保護者（学校教育法第16条に規定する保護者をいう。第24条及び第30条において同じ。）に対して必要な（ ④ ）を行うものとする。

	①	②	③	④
a	健康診断	健康状態	指導	支援
b	健康相談	生活行動	指導	支援
c	健康診断	健康状態	支援	指導
d	健康診断	生活行動	支援	助言
e	健康相談	健康状態	指導	助言

- 3 次の文は、学校保健安全法施行規則（昭33. 6. 13文部省令第18号）の条文である。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

第24条 学校薬剤師の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 学校保健計画及び学校安全計画の立案に（ ① ）すること。
 - 二 第1条の（ ② ）検査に従事すること。
 - 三 学校の（ ② ）の維持及び改善に関し、必要な指導及び助言を行うこと。
 - 四 法第8条の健康相談に従事すること。
 - 五 法第9条の（ ③ ）に従事すること。
 - 六 学校において使用する医薬品、毒物、劇物並びに（ ④ ）に必要な用具及び材料の管理に関し必要な指導及び助言を行い、及びこれらのものについて必要に応じ試験、検査又は鑑定を行うこと。
 - 七 前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における（ ④ ）に関する専門的事項に関する技術及び指導に従事すること。
- 2 学校薬剤師は、前項の職務に従事したときは、その状況の概要を学校薬剤師執務記録簿に記入して（ ⑤ ）に提出するものとする。

	①	②	③	④	⑤
a	参与	環境衛生	保健指導	保健管理	校長
b	協力	環境衛生	指導助言	保健教育	学校の設置者
c	協力	衛生管理	指導助言	保健管理	学校の設置者
d	参与	衛生管理	保健指導	保健教育	校長
e	参与	衛生管理	保健指導	保健管理	学校の設置者

第2問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 「保健主事のための実務ハンドブック—令和2年度改訂—」（令和3年3月、公益財団法人 日本学校保健会）について、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、子供の健康課題の把握について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ア

我が国における学校保健は、明治初期に(①)として始まり、現在の制度は、昭和33年に制定された学校保健法により形づくられました。昭和33年当時は、寄生虫・(②)・結核などの伝染病や(③)などが子供の重要な健康課題と認識されていましたが、これらの課題について学校保健は大きな成果を上げてきたと言えます。

近年、都市化、少子高齢化、情報化、国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康にも大きな影響を与えており、新たな課題が顕在化しています。また、過度な運動・スポーツによる運動器疾患・障害のある子供や、(④)が日常的に必要な子供も見られる状況にあります。

	①	②	③	④
a	公衆衛生	疥癬	近視	医療的ケア
b	学校衛生	トラコーマ	むし歯	医療的ケア
c	学校衛生	トラコーマ	近視	精神的ケア
d	公衆衛生	疥癬	むし歯	精神的ケア
e	学校衛生	疥癬	むし歯	精神的ケア

- (2) 次の文は、学校保健と学校全体の活動との調整について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

学校保健は、保健教育及び保健管理の諸活動を通して児童生徒の健康の保持増進を図り、(①)の達成に寄与することを目指しておこなわれます。そして、保健教育及び保健管理の活動の円滑な実施とその成果の確保に資するようするためには、全教職員の共通理解に基づいて(②)を明確にした上で(③)に活動を推進するとともに、家庭及び地域の関係機関等との連携を密にするための学校保健に関する(④)を充実することが求められます。

	①	②	③	④
a	学校教育目標	専門性	組織的	組織活動
b	学校保健目標	専門性	組織的	教育活動
c	学校保健目標	役割	計画的	組織活動
d	学校教育目標	役割	組織的	組織活動
e	学校保健目標	役割	計画的	教育活動

- (3) 次の文は、学校保健計画の作成と実施について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

平成20年7月9日付け20文科ス第522号「学校保健法等の一部を改正する法律の公布について」の「第二 留意事項 第1学校保健安全法関連 二 学校保健に関する留意事項」では、次のように示されています。

- ・学校保健計画は、学校において必要とされる保健に関する具体的な(①)であり、毎年度、学校の状況や前年度の学校保健の取組状況等を踏まえ、作成されるべきものであること。
- ・学校保健計画には、法律で規定された児童生徒等及び職員の健康診断、(②)、児童生徒等に対する指導に関する事項を必ず盛り込むこととすること。
- ・学校保健に関する取組を進めるに当たっては、学校のみならず、保護者や関係機関・関係団体等と連携協力を図っていくことが重要であることから、学校教育法等において学校運営の状況に関する情報を(③)提供するものとされていることも踏まえ、学校保健計画の内容については原則として保護者等の関係者に周知を図ることとすること。このことは、学校安全計画についても同様であること。

各学校においては、これらの留意事項を踏まえ、学校における保健管理と保健教育、(④)などの組織活動など学校保健活動の年間を見通した総合的な基本計画となるよう作成することが大切です。

	①	②	③	④
a	実施計画	健康相談	必要に応じて	学校保健委員会
b	指導計画	環境衛生検査	積極的に	健康相談
c	指導計画	環境衛生検査	必要に応じて	健康相談
d	実施計画	健康相談	積極的に	学校保健委員会
e	実施計画	環境衛生検査	積極的に	学校保健委員会

- (4) 次の文は、学校保健計画作成上の留意点について述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

工

- ・学校評価を十分生かし、児童生徒や地域の (①)、学校種別、規模等に即して自校の実情にあった計画を作成する。
- ・収集した情報を活用して、学校の (①) に即した適切な計画にする。
- ・学校の教育方針 (教育目標や努力事項)、諸行事を考慮して、実施の (②) を精選し、有機的な関連をもたせる。
- ・保健管理と (③) の関連を明確にしておく。
- ・学校内関係者の一方的な計画にならないように、(④) はもちろん各関係機関との連絡・調整を図る。
- ・関係教職員の理解を深めるとともに、責任分担を明確にする。
- ・PTA、家庭や地域社会の保健活動との連携を図る。
- ・小学校及び中学校においては、学習指導要領解説総則編付録の「心身の健康の保持増進に関する教育 (現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容)」を参考にし、それぞれの教育目標や児童生徒の (①) を踏まえた上で、カリキュラム・マネジメントの内容を盛り込む。

	①	②	③	④
a	課題	重点事項	保健教育	校長
b	課題	配慮事項	組織活動	設置者
c	実態	重点事項	保健教育	設置者
d	実態	配慮事項	組織活動	保健主事
e	課題	重点事項	組織活動	校長

2 「保健室経営計画作成の手引 平成26年度改訂」(公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、養護教諭に求められている役割について述べたものである。これらのうち、保健主事を兼務している養護教諭の役割はどれか。正しい組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- ① 学校保健センター的役割を果たしている保健室経営の充実(保健室経営計画の作成)
- ② いじめや児童虐待など子供の心身の健康問題の早期発見、早期対応
- ③ 総合的な学校保健計画の作成
- ④ 学校保健委員会(地域学校保健委員会)の活性化
- ⑤ 学校内及び地域の医療機関等との連携を推進する上でコーディネーターの役割
- ⑥ 健康・安全に関わる危機管理への対応
- ⑦ 学校保健と学校全体の活動に関する調整
- ⑧ 校内保健組織を核とした組織的な運営と活動
- ⑨ 学校保健活動の評価(PDCA)等
- ⑩ 学級(ホームルーム)活動における保健指導をはじめ、TTや兼職発令による保健学習などへの積極的な授業参画

a	b	c	d	e
①②③⑨⑩	①③⑤⑦⑨	②④⑥⑧⑩	③④⑦⑧⑨	⑤⑥⑦⑧⑩

(2) 次の文は、保健室の機能について述べたものである。文中の(①)～(③)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

保健室の機能は、中教審答申(H20.1)に示されているように、学校保健活動のセンター的機能として統括することができる。「場」としての機能として整理すると、「健康診断」「健康相談」「(①)」「救急処置」に加え、「(②)」「保健情報センター」「保健組織活動のセンター」などの機能がある。

養護教諭は、保健室経営をするに当たり職務や役割、保健室の機能を十分考慮した上で、保健室経営計画((③)型)を立て、組織的に運営していくことが重要である。

	①	②	③
a	保健指導	環境衛生検査	課題解決
b	健康観察	環境衛生検査	問題提起
c	保健指導	発育測定	課題解決
d	健康観察	環境衛生検査	課題解決
e	健康観察	発育測定	問題提起

第3問 次の1～9の問いに答えなさい。

1 「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改訂」(公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、身長測定について一部抜粋して述べたものである。これらの説明のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。

ア

<検査の意義>

① 健康診断における身長測定結果から、児童生徒等が属する集団の身長測定値を身長成長曲線として検討することにより、身長が正常に伸びていることの確認や低身長になる児童生徒等の早期治療に役立てる。

<方法>

② 尺柱には、両かかと、臀部、背の一部、後頭部が触れた状態とする。

③ 頭位を正位(眼耳水平位)に保つため、軽く顎を引かせる。

<事後措置>

④ 健康診断時における児童生徒等の身長が低すぎる、あるいは高すぎると感じた場合は、これを書類にチェックするにとどめ、健康診断終了後、それまでの身長測定値を基に身長成長曲線を描いて検討し評価した上で、適切な事後指導について検討する。

⑤ 児童生徒等の身長測定値について統計処理をすることによって、身長に関する学校単位、都道府県・市町村単位などの状況を比較、検討することができる。ただし、現在は、学年ごとの人数が少ない傾向があるので、一人一人の児童生徒等の身長測定値や測定値の分布が統計処理に適しているか検討する必要がある。

	①	②	③	④	⑤
a	○	×	○	×	×
b	×	○	×	○	○
c	×	×	○	○	×
d	○	○	○	×	○
e	×	×	×	○	○

- (2) 次の文は、体重測定の留意事項について述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a~e から一つ選びなさい。

イ

- ・ 体重は大きく体脂肪重量と (①) に分けることができる。体脂肪重量は貯蔵エネルギーの量を意味しているが、これが異常に増加すると肥満といわれる状態になり、成人と同様にメタボリック・シンドロームに代表される (②) につながることになる。(①) は筋肉、骨格、脳、肝臓、心臓といったいわば内臓の総量としての重さを意味する。
- ・ 健康診断時にやせ型の児童生徒等をみた場合は、「児童生徒等の虐待」を心にとめて観察する必要がある。体重成長曲線と肥満度曲線を描くことによって肥満や思春期やせ症（神経性食欲不振症）、児童生徒等の虐待などを早期に発見して適切な対応をすることが必要である。
- ・ 思春期にみられる体重の急激な増加は思春期成長促進現象であって、身長と同じく女子の方が男子よりも (③) ほど早く始まり、早く終わる。この現象は身長と比較すると体重の方が少し遅れてみられるのが一般的である。また、体重の思春期成長促進現象は (④) が大きいことを常に考慮しておかなければならない。

	①	②	③	④
a	除体脂肪重量	健康障害	5年	個人差
b	非体脂肪重量	健康障害	2年	性差
c	除体脂肪重量	生活習慣病	5年	性差
d	非体脂肪重量	生活習慣病	5年	個人差
e	除体脂肪重量	健康障害	2年	個人差

- (3) 次の文は、栄養状態の検査の実際について述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

ウ

<準備>

肥満及びやせなどの栄養状態の評価のためのスクリーニングとして、身長と体重の成長曲線、性別、年齢別、身長別標準体重などを用いて計算した (①) を用いる。

<方法>

(②) の色や光沢、貧血の有無、皮下脂肪の状態、筋肉や骨格の発達 of 程度等について、視診あるいは (③) により検査する。

<判定>

栄養状態についての最終的な評価は、(④) が総合的に判断して行うものであるが、その判断に際しては、成長曲線、肥満度曲線、貧血検査結果等を検討して、的確な判断を行う。

	①	②	③	④
a	肥満度	皮膚	触診	学校医
b	BMI	皮膚	打診	主治医
c	肥満度	顔	触診	主治医
d	BMI	顔	触診	学校医
e	BMI	顔	打診	学校医

- (4) 次の文は、成長曲線等を描くことの意義について述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

- ・一人一人の児童生徒等特有の (①) を評価できる。
- ・「肥満」や「やせ」といった栄養状態の変化，それに加えて低身長，高身長，特に性早熟症といって一時的に身長伸びがよく，児童生徒等本人や保護者も急速に伸びる身長のことを喜んでいると，早期に身長伸びが (②)，最終的には極端な (③) になるといった病気を早期に見つけることができる。
- ・成長曲線パターンの変化は目で見て分かるので，児童生徒等及び保護者がその変化の様子を (④) 理解できる。
- ・成長曲線と肥満度曲線を併せ用いることで，肥満ややせの状態を分かりやすく評価できる。

	①	②	③	④
a	成長過程	止まって	低身長	詳細に
b	成長特性	止まって	低身長	容易に
c	成長過程	進み	高身長	容易に
d	成長過程	進み	低身長	詳細に
e	成長特性	進み	高身長	詳細に

(5) 次の文と図は、成長曲線に基づく肥満とやせの分類について示すものである。この①～⑥の説明について、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。右のa～eから一つ選びなさい。 オ

成長曲線に基づいて、肥満（図1）とやせ（図2）についてそれぞれA、B、Cの3つの型に分類した。

<図1の説明>

- ① A型は身長に対比した体重の値は大きいので肥満ではあるが、成長曲線と肥満度曲線はチャンネルに沿っていて、肥満度も軽度な体質性肥満である。
- ② B型は体重成長曲線がチャンネルを横切って上向きになっているが、身長成長曲線はチャンネルに沿っている単純性肥満である。
- ③ C型は身長成長曲線がチャンネルを横切って上向き傾向（身長の伸びが良い）になっており、体重成長曲線も上向き（体重は増えている）のもので、これは病気が原因の症候性肥満である。

<図2の説明>

- ④ A型は、身長に対比した体重の値は少ないのでやせではあるが、身長と体重成長曲線はチャンネルに沿っているので病的やせである。
- ⑤ B型は、身長成長曲線はチャンネルに沿っているが、体重成長曲線がチャンネルを横切って下向きになり、体重の増加が正常を下回っている体質性やせである。
- ⑥ C型は体重成長曲線が大きくチャンネルを横切って下向き（過去の体重より現在の体重が少ない）のもので、これは重大な病気が原因と考えなければならないやせである。

図1 成長曲線に基づく肥満の分類

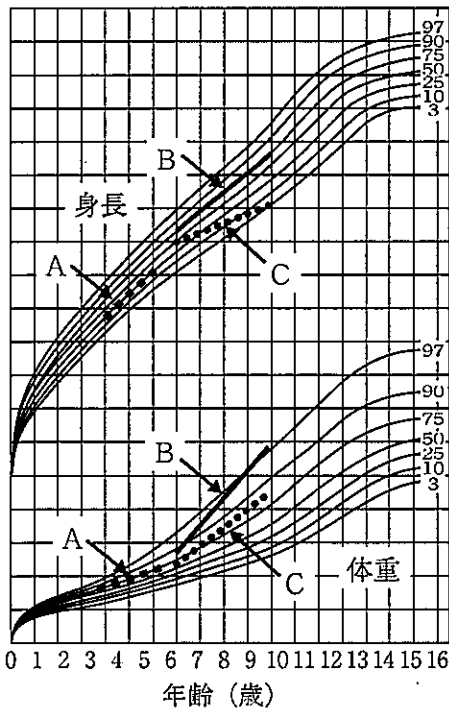
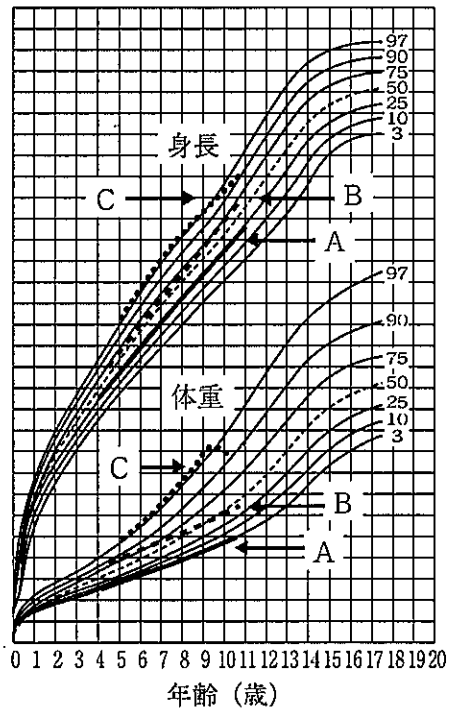


図2 成長曲線に基づくやせの分類



	①	②	③	④	⑤	⑥
a	○	×	○	×	×	×
b	○	○	×	×	×	○
c	×	×	×	○	○	○
d	×	○	×	×	×	○
e	×	×	○	○	○	×

- 2 「学校心臓検診の実際～スクリーニングから管理まで～令和2年度改訂」（公益財団法人 日本学校保健会）について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、1次検診の実施項目とその判定のうち、養護教諭、担任、体育教師などからの情報・意見について述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 カ

学級担任、養護教諭、体育教師、学校長は健康に問題を持つ児童生徒の健康障害の内容、その程度、学校生活上の(①)、日常健康状態の変化の注意点、急変時の応急対応法などの情報を共有しておくことが必須である。健康状態に関する正確な情報と必要な知識を備えた教師らによる日常的健康監視は、児童生徒の健康維持・発展にとって極めて有用かつ重要なことである。

一般の児童生徒と同様、健康観察には以下のような項目が挙げられる。顔貌・表情、皮膚の色調、(②)の可否、動作・行動・反応性、話し方・言葉つき、総合的印象などである。こうした観察項目の短期的・長期的変化の把握が重要である。

心疾患を持つ児童生徒には、上記の一般的観察のほかに次のような観察にも心がけてほしい。(③)の動悸・息切れ、胸痛や息苦しさ、めまいやいわゆる貧血症状、(④)・爪床・四肢末端のチアノーゼ、活気・表情、食欲などであり、一般的観察項目と同じく長期的に見た変化と、短期的病態悪化の把握が必要である。観察項目の短期的・急激な変化があれば直ちに学校医または主治医と連絡をとり、(⑤)の遅れが無いようにしなければならない。また、いずれの項目の変化も家庭と学校医に報告することを忘れてはならない。

	①	②	③	④	⑤
a	規制基準	姿勢の保持	安静時	口唇	教育的支援
b	規制基準	学習継続	活動時	頬	医学的対応
c	管理基準	学習継続	安静時	頬	医学的対応
d	管理基準	姿勢の保持	活動時	口唇	医学的対応
e	管理基準	学習継続	安静時	口唇	教育的支援

(2) 次の表は、学童期によくみられる心臓病について述べたものである。病名と説明が誤っているものの組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。 キ

	病名	説明
①	心房中隔欠損 (ASD)	先天性心疾患の中で、最も多くみられるものである。症状は、孔の大きさに左右される。その程度により左心房・左心室の拡大が生じる病気である。多くは乳児期までに発見され、学童期以降に初めて見つかることはまれである。
②	動脈管開存 (PDA)	大動脈と肺動脈の間の交通路（動脈管）は、生まれてしばらくすると閉鎖するが動脈管が閉鎖しないで開存し続ける病気である。症状は、動脈管のサイズに左右される。その程度により左心房・左心室の拡大が生じる。
③	ファロー四徴 (TOF)	比較的大きな心房中隔欠損があり、大動脈が前方に偏位することで、心室中隔に乗った位置（大動脈騎乗）にあり、肺動脈狭窄（弁下、弁）をきたす病気である。このため右心室圧は左心室圧と等圧になり、左室肥大を呈する。肺動脈狭窄の程度により症状が異なる。
④	房室中隔欠損 (AVSD)	4つの部屋を分離している中心部分（心内膜床）の欠損が生じる病気である。完全型と不完全型に分けられる。完全型は心房中隔、心室中隔の両方に欠損がある。現在では乳幼児期に手術は完了している場合が多い。
⑤	完全大血管転位 (TGA)	左心室から大動脈が、右心室から肺動脈が始まる病気であり、ほとんどが児童期に診断される。心室中隔欠損の有無、肺動脈狭窄の有無、程度により症状、手術方法、手術時期が異なる。

a	b	c	d	e
①②	③④	①②④	②③⑤	①③⑤

- 3 次の文は、「学校における色覚に関する資料」(公益財団法人 日本学校保健会)の中で、色覚異常の特性について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

色覚異常のある人に見わけにくい色は、虹のグラデーションでいうと緑から赤までの間(緑, 黄緑, 黄, 橙, 赤)です。赤から緑までの色に対しては、色の差が小さく、また(①)が低い色として感じている可能性があるからです。

このため、緑の葉や芝生などを(②)に、またはアスファルトの道路、灰色の建物、曇り空などを(③)に描くことがあっても、故意や心理的な要因ではありません。

色の判別が困難な条件は、(④)環境、(①)の低い色、小さな面積のときです。

	①	②	③	④
a	彩度	茶色	ピンク	暗い
b	明度	茶色	橙	まぶしい
c	彩度	青	橙	暗い
d	明度	青	ピンク	まぶしい
e	彩度	青	ピンク	まぶしい

- 4 次の文は、「健康的な学習環境を維持管理するために一学校における化学物質による健康障害に関する参考資料―」（平成24年1月 文部科学省）の中で、いわゆる「化学物質過敏症」とみられる児童生徒等への対応について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ④ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ケ

現在いわゆる「化学物質過敏症」が、（ ① ）と検査所見の組み合わせのみから診断され、化学物質の関与が明確にされていない場合があることは、学校現場における対策の立案・実施を困難にする要因となりかねません。

いわゆる「化学物質過敏症」に関して専門的な知見を有している病院があります。また、地域の保健所において「（ ② ）」及びいわゆる「化学物質過敏症」に対する対策室等がある場合があり、医師等の情報を有している場合があるので活用することが求められます。

学校内において児童生徒等が過敏に反応する化学物質を把握するためには、症状が出るまでの当該児童生徒等の（ ③ ）や接触物について養護教諭及び学級担任が経過観察することも有効であると思われます。その結果を管理職・学校医・主治医に報告できるように記録を取ることで以後の対策に役立つと考えられます。

いわゆる「化学物質過敏症」は、その症状や原因物質が一人一人異なり、重篤な症状を呈する場合もあることから、当該児童生徒等の主治医及び学校医の指導の基に（ ④ ）も含めた個別の健康管理計画を作成することも有効であると考えられます。

	①	②	③	④
a	主訴	シックハウス症候群	生活行動	疾病管理
b	臨床症状	アレルギー疾患	行動範囲	疾病管理
c	主訴	アレルギー疾患	行動範囲	危機管理
d	主訴	アレルギー疾患	生活行動	危機管理
e	臨床症状	シックハウス症候群	行動範囲	危機管理

- 5 次の文は、「学校において予防すべき感染症の解説〈平成30（2018）年3月発行〉」（公益財団法人 日本学校保健会）の中で、学校における感染症への対応について述べたものである。次の（1）・（2）の問いに答えなさい。

- （1） 次の説明文で、誤っているものはどれか。次のa～eから一つ選びなさい。

コ

- a 各感染症の出席停止の期間は、感染様式と疾患の特性を考慮して、人から人への感染力を有する程度に病原体が排出されている期間を基準としている。
- b 感染症の拡大を防ぐためには、患者は、他人に容易に感染させる状態の期間は集団の場を避けるようにすること、健康が回復するまで治療や休養の時間を確保することが必要である。
- c 診断は、診察に当たった医師が身体症状及びその他の検査結果等を総合して、医学的知見に基づいて行われるものである。状況に応じては、学校から特定の検査等の実施（例えば、インフルエンザ迅速診断検査やノロウイルス検査）を求める必要がある。治癒の判断（治癒証明書等）も同様である。
- d 全員の皆勤をクラス目標に掲げている等の理由で、体調がすぐれず、本来であれば休養をとるべき児童生徒が出席するといったことがないように、適切な指導が求められる。
- e 児童生徒等及び保護者への当該感染症に対する指導を行い、症状があるのにも関わらず無理に登校させることがないように協力を得る。

- (2) 文中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

サ

〔第一種の感染症〕

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下感染症法という。)の第一類感染症と (①) を除く第二類感染症を規定している。出席停止期間の基準は、「(②) するまで」である。

〔第二種の感染症〕

空気感染又は (③) するもので、児童生徒等の罹患が多く、学校において流行を広げる可能性が高い感染症を規定している。出席停止期間の基準は、感染症ごとに個別に定められている。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りではない。

〔第三種の感染症〕

学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性がある感染症を規定している。出席停止期間の基準は、病状により学校医その他の医師において (④) のおそれがないと認めるまでである。

なお、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合には、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り、校長が学校医の意見を聞き、第三種の感染症の「その他の感染症」として (⑤) に措置をとることができる。「その他の感染症」として出席停止の指示をするかどうかは、感染症の種類や各地域、学校における感染症の発生・流行の態様等を考慮の上で判断する必要がある、あらかじめ特定の疾患を定めてあるものではない。

	①	②	③	④	⑤
a	急性灰白髄炎	寛解	接触感染	感染	緊急的
b	結核	治癒	飛沫感染	感染	緊急的
c	急性灰白髄炎	治癒	接触感染	重症化	緊急的
d	急性灰白髄炎	治癒	接触感染	感染	臨時
e	結核	寛解	飛沫感染	重症化	臨時

- 6 次の文は、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン<令和元年度改訂>」(公益財団法人 日本学校保健会)の中で、気管支ぜん息の発作のメカニズムについて述べたものである。この①～⑤の説明について、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。

シ

- ① 発作がないときの気管支 : 気道の突発的な炎症によって、気道過敏性は高まっている。気道が刺激に対し敏感な状態になっているところへ、発作を引き起こす刺激(増悪因子)が加わると、発作が起きる。
- ② 発作のときの気管支(症状) : ぜん鳴、止まらないせき、息切れの増加、タンの増加など
- ③ 発作のときの気管支(特徴) : 増悪因子によって気管支のまわりの筋肉が拡張し、気道が広がったままになり発作が起こるが、発作治療薬などの使用によって気道はもとの状態にもどる。
- ④ 発作にかかわる増悪因子(アレルギー) : ダニ(死骸やフン)、ハウスダスト(ダニの死骸やフンを含んだほこり)、ペットの毛やフケ、カビ、花粉など
- ⑤ 発作にかかわる増悪因子(アレルギー以外) : 激しいスポーツ、かぜやインフルエンザなどの感染症、季節の変わり目や天候不順、温度変化(春や秋、梅雨や台風、冷たい空気)、強い臭いや煙、ストレス、過労など

	①	②	③	④	⑤
a	○	○	×	×	○
b	×	○	×	○	○
c	○	×	○	○	×
d	×	×	○	×	○
e	○	×	×	○	×

7 次の文は、「ギャンブル等依存症などを予防するために～生徒の心と体を守るための指導参考資料～」(平成31年3月 文部科学省)について述べたものである。次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、依存症について述べているものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

一般的にニコチン、アルコール、薬物、ギャンブル等、ゲームなどを「やめたくてもやめられない」状態のことを「依存症」といいますが、(①)的には「嗜癖(しへき)」という用語を使います。

「嗜癖」の対象は、ニコチン、アルコール、薬物などの特定の「物質」の摂取と、ギャンブル等の「行動」に分けられます。その対象が「物質」の摂取の場合は「(②)」といい、対象が「行動」の場合は「(③)」といいます。

「(②)」の場合、特定の物質(ニコチン、アルコール、薬物等)を体内に吸収すると、心地よくなり、繰り返し使用するうちに、その物質なしではいられなくなり、1回の使用量や使用頻度が増えていきます。そのような状態が続くと、やがて健康や(④)に支障が出てきます。

	①	②	③	④
a	医学	物質依存	行動依存	体力面
b	社会学	物質依存	行動嗜癖	生活面
c	医学	物質嗜癖	行動嗜癖	体力面
d	社会学	物質嗜癖	行動依存	体力面
e	医学	物質依存	行動嗜癖	生活面

- (2) 次の文は、やめられなくなる脳の仕組みについて述べたものである。文中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

脳には、美味しいものを食べる、試験に合格するなどによって快感や幸せを感じる機能があります。これは、(①) が生まれるプロセスに重要な役割を果たしています。

ギャンブル等を行ったり、依存物質を摂取したりすることにより、脳内で (②) という神経伝達物質が分泌されます。(②) が脳内に放出されることで (③) が興奮して快感・多幸福感が得られます。この感覚を脳が「(④)」と認識すると、その (④) を求める回路が脳内にできあがります。

しかし、その行為が繰り返されると次第に「(④)」回路の機能が低下していき、「快感・喜び」を感じにくくなります。そのため、以前と同じ快感を得ようとして、依存物質の使用量が増えたり、行動がエスカレートしたりしていきます。また、脳の思考や創造性を担う部位 ((⑤)) の機能が低下し、自分の意思でコントロールすることが困難になります。

	①	②	③	④	⑤
a	行動嗜癖	ドーパミン	中枢神経	報酬 (ごほうび)	前頭前野
b	行動依存	ドーパミン	下垂体	快樂 (よろこび)	前頭前野
c	行動嗜癖	メラトニン	下垂体	報酬 (ごほうび)	前頭後野
d	行動嗜癖	ドーパミン	下垂体	快樂 (よろこび)	前頭後野
e	行動依存	メラトニン	中枢神経	快樂 (よろこび)	前頭前野

- (3) 次の文は、ゲームへののめり込みについて述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a~e から一つ選びなさい。

ソ

従来のパソコンを利用したオンラインゲームに加えて、最近ではスマートフォンや携帯ゲーム機等を利用してゲームをする人が増えています。これらは、(①)、どこでもゲームを行うことができるため、ゲームへののめり込みが社会的に問題になっています。

2018年6月に公表されたICD-11（最終草案）では、下記の4項目が(②) 続く場合、「ゲーム障害」に該当するとされています。

- ・ゲームの使用を制御できない。
- ・ゲームを最優先する。
- ・問題が起きてもゲームを続ける。
- ・ゲームにより個人や家庭、学習や仕事などに重大な問題が生じている。

小中学生などの場合、ゲームを始めて(③)でも深刻な状況となるケースがあるため、重症の場合は(②)未満でもゲーム障害に該当するとされています。

インターネットを利用してゲームができるスマートフォン、携帯ゲーム機等は、(④)に陥る要因である「(①)、どこでもできる」ことから、ゲームへののめり込みに対して、小学生、中学生のみならず、高校生においても注意が必要です。

	①	②	③	④
a	いつでも	12か月	3～4か月	行動嗜癖
b	誰でも	6か月	10～11か月	行動嗜癖
c	いつでも	6か月	10～11か月	行動嗜癖
d	いつでも	6か月	3～4か月	行動依存
e	誰でも	12か月	3～4か月	行動依存

- 8 「精神疾患に関する指導参考資料」(公益財団法人 日本学校保健会)について、次の(1)～(6)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、思春期にはじまる心の病について述べたものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

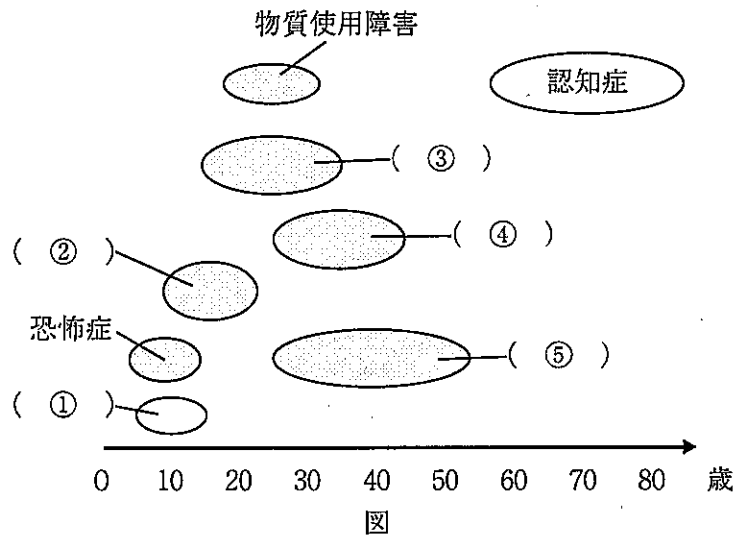
タ

思春期は、心身ともに成人に向けて発達する時期である。生物学的にも極めて不安定な時期にあり、心の発達を支える(①)が大きく成長を遂げる時期でもある。とくに脳の重さに注目すると、身長伸びが止まってからも脳は重くなり続け、22～23歳頃までは成長発達を続けているという。また、思春期は人生の発達段階としても新たな刺激に富んでいると共に、社会関係が拡大し、また将来への希望や重圧が交錯するなど、心的環境変化の活発な時期でもある。そんな思春期の心の健康を考える際に、精神疾患への理解を外すことはできない。これらの精神疾患の好発年齢は、(②)くらいまでとされ、生涯のうち精神疾患に罹(かか)る人のうち、(③)%が25歳未満で発病しているという報告もある。

精神疾患を発症するメカニズムについては、未解明な部分が多いが、精神疾患は脳機能の障害であり、生まれながらの体質あるいは脆弱性(罹(かか)りやすさ)と生育環境における様々なストレスとの(④)が発症に影響していると考えられている。

	①	②	③	④
a	脳神経系	20歳から35歳	50	相互関係
b	中枢神経系	20歳から35歳	75	拮抗作用
c	脳神経系	15歳から30歳	75	相互関係
d	中枢神経系	15歳から30歳	50	拮抗作用
e	中枢神経系	15歳から30歳	50	相互関係

(2) 次の図は、精神疾患と好発年齢について示したものである。(①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 チ



	①	②	③	④	⑤
a	発達障害	摂食障害	不安障害	気分障害	統合失調症
b	発達障害	摂食障害	気分障害	不安障害	統合失調症
c	摂食障害	発達障害	統合失調症	不安障害	気分障害
d	発達障害	摂食障害	統合失調症	気分障害	不安障害
e	摂食障害	発達障害	気分障害	統合失調症	不安障害

(3) 次の文は、摂食障害の症状の特徴について述べたものである。文中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

ツ

体型と体重への極端なこだわりを背景に、ごくわずかしか食べない、大量に食べて吐くを繰り返すといった、食べることへの障害がみられます。栄養摂取不良、電解質異常*を引き起こすため、身体への負担は大きく、(①) に及ぶこともあります。摂食障害は、神経性やせ症と神経性過食症に分かれます。

○神経性やせ症

- ・食事や栄養の摂取制限によって体重減少し、(②) や性別などから期待される体重を下回る。
- ・体重増加や肥満への強い恐怖がある。
- ・自身の低体重の深刻さに対する認識の欠如。

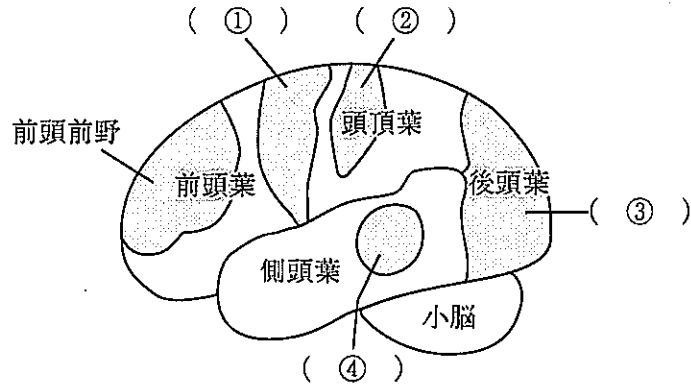
○神経性過食症

- ・(③) に、一般的には考えられないほどの量を食べる。
- ・食べることを自分でコントロールできないという感覚 (例：食べることをやめることができない、食べ物の種類や量を抑制できない)
- ・体重が増えることを防ぐために (④) をとる (例：嘔吐、緩下剤、利尿薬、その他の医薬品の乱用、絶食、過剰な運動等)

*電解質異常とは：ナトリウムやカリウム、カルシウム、マグネシウムなどのミネラルのことを電解質と言います。健康な状態では、血液中の電解質は一定の濃度に保たれていますが、バランスが崩れ、濃度が高くなったり低くなったりすることを電解質異常と言います。電解質異常では、筋肉の異常、意識障害、(⑤) の機能の異常などが起こります。

	①	②	③	④	⑤
a	生命の危機	学年	深夜や早朝	反動形成	胃腸
b	生命の危機	年齢	短期間・短時間	代償行動	心臓
c	成長の停滞	年齢	深夜や早朝	反動形成	胃腸
d	成長の停滞	年齢	深夜や早朝	代償行動	心臓
e	生命の危機	学年	短期間・短時間	代償行動	胃腸

(4) 次の図は、大脳皮質の構造と機能分化を示したものである。(①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。



図

	①	②	③	④
a	感覚野	聴覚野	運動野	視覚野
b	運動野	感覚野	聴覚野	視覚野
c	感覚野	運動野	視覚野	聴覚野
d	運動野	感覚野	視覚野	聴覚野
e	視覚野	運動野	聴覚野	感覚野

- (5) 次の文は、心の健康と脳の働きについて述べたものである。文中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

ト

大脳辺縁系には、喜怒哀楽など感情を生み出す「(①)」、五感で得た感覚情報を記憶し衝動的な行動を起こす「(②)」、報酬や嗜好、快感を司る「側坐核」、大脳辺縁系の各部位を結びつけ感情を形成する、また学習と記憶に関わりを持つ「帯状回」があります。食欲、睡眠欲、性欲などの欲求、不安や恐怖、怒り、愛情などの感情を生み出しており、人間の動物としての本能に関わっています。

脳幹には、中脳、間脳、橋、延髄などがあります。特に、(③)には、全身の感覚情報を集約する「視床」、血圧・体温・心拍数等をコントロールする「(④)」、ホルモン分泌の中樞である「(⑤)」など、生命維持に不可欠な機能が備わっています。

	①	②	③	④	⑤
a	扁桃体	海馬	間脳	視床下部	脳下垂体
b	海馬	扁桃体	間脳	脳下垂体	視床下部
c	扁桃体	海馬	中脳	視床下部	脳下垂体
d	海馬	扁桃体	間脳	視床下部	脳下垂体
e	扁桃体	海馬	中脳	脳下垂体	視床下部

- (6) 次の文は、若者の精神保健に関する諸問題について述べたものである。①～⑤の説明について、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。 ナ

- ① 不登校は、個人よりも時代や環境の問題という認識が優勢になってきており、このような認識の変化は親や教師の態度を変え、無理に登校させるのではなく、教師による家庭訪問やフリースクール参加などを出席と認めるといった多様な就学形態がある。
- ② 度重なる欠席の原因については、身体的疾患、子供が学校に行くことに反抗している場合などもあるが、不登校はこれらとは異なり身体的に健康で通学意欲があり親もそれを支援しているにもかかわらず、精神疾患のために登校できないことが多い。
- ③ 若年者のひきこもりは中学校から高校までの期間にみられるが、より高い年齢のひきこもりも存在する。不登校と同じく精神疾患を背景にしていることも多く、基礎疾患としては統合失調症のような精神病性疾患や対人恐怖などの神経性疾患がある。
- ④ 近年ではひきこもりの長期化による高齢化が問題になっている。「8020問題」という語は、介護が必要な高齢の親世代が、ひきこもりなどで自立できない同居する子を支援しながら、2世代で社会から孤立する現象を指している。
- ⑤ いじめは、加害・被害という二者関係だけでなく、所属団体の構造的な問題、「観衆」としてはやしたてたり、面白がったりする存在、周辺で暗黙の了解を与えている「傍観者」の存在に注意を払い、集団全体にいじめを許容しない雰囲気形成されるようにすることが必要である。

	①	②	③	④	⑤
a	○	○	○	×	×
b	×	×	○	○	○
c	○	○	×	○	×
d	○	×	×	×	○
e	×	○	×	○	○

- 9 次の文は、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」(文部科学省)において、心理社会的要因に基づく問題について述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 二

心理社会的要因に基づく問題は、心理的問題、環境要因、ストレスなどが原因となって生じた症状や疾患を指す。具体的には、虐待、事件・事故、自然災害等による心的外傷後ストレス障害(PTSD)、保護者のアルコール依存の影響による精神症状、いじめや不適応による(①)などが含まれる。

心理社会的問題の背景には、複数の要因(家庭の経済状態、保護者の精神疾患や家族病理、交友関係、地域性など)が複合的に絡むことが多い。そのため、丁寧な(②)に基づく教育相談、健康相談、生活指導などに加え、保健所や(③)を介した保護者へのアプローチ、家族支援、(④)のような校外機関との連携が必要となることがある。

心理社会的要因に由来する問題でも、精神症状や心身の不調が激しいときには、(⑤)の受診が必要である。

	①	②	③	④	⑤
a	発達障害	課題分析	ソーシャルワーカー	福祉的介入	総合心療科
b	うつ状態	課題分析	カウンセラー	教育的介入	精神科
c	うつ状態	情報収集	ソーシャルワーカー	福祉的介入	精神科
d	うつ状態	情報収集	カウンセラー	教育的介入	総合心療科
e	発達障害	情報収集	ソーシャルワーカー	教育的介入	精神科

第4問 次の1～6の問いに答えなさい。

いずれも、「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践平成30年度改訂版」(文部科学省)について述べたものである。

1 次の文は、定期検査について述べたものである。このうち、誤っているのはどれか。次のa～eから一つ選びなさい。

- a 定期検査は、それぞれの検査項目についてその実態を客観的、科学的な方法で定期的に把握し、その結果に基づいて事後措置を講ずるためのものである。
- b 定期検査に使用する測定機器はデジタル機器を含め、適正なものでなくてはならない。
- c 検査の実施に当たっては、その内容により、学校薬剤師が自ら行う、学校薬剤師の指導助言の下に教職員が行う、又は学校薬剤師と相談の上で外部の検査機関に依頼することなどが考えられる。
- d 各学校における検査の実施については学校薬剤師の責任のもと、确实かつ適切に実施しなければならない。
- e 特に、検査機関に検査を依頼する場合には、検査機関に任せきりにするのではなく、検査計画の作成、検体採取(又は検体採取立会い)、結果の評価等については、学校薬剤師等学校関係者が中心となって行い、適切な検査の実施に努めなければならない。

2 次の文は、日常点検について述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

日常点検は、点検すべき事項について、毎授業日の授業開始時、授業中、又は授業終了時等において、主として(①)によりその環境を点検し、その点検結果を定期検査や臨時検査に活用したり、(②)事後措置を講じたりするためのものである。各教室の環境については(③)の役割とするなど、(④)等に基づき教職員の役割を明確にした上で、确实に実施する必要がある。

学校環境衛生活動は、身の回りの環境がどのように維持されているかを知る(⑤)の一環として、児童生徒等が学校環境衛生活動を行うことも考えられる。

	①	②	③	④	⑤
a	官能法	遅滞なく	養護教諭	校務分掌	安全教育
b	官能法	必要に応じて	学級担任	校務分掌	保健教育
c	観察法	必要に応じて	養護教諭	教育計画	安全教育
d	官能法	遅滞なく	学級担任	教育計画	保健教育
e	観察法	必要に応じて	養護教諭	校務分掌	安全教育

- 3 次の文は、臨時検査について述べたものである。文中の (①) ~ (④) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

臨時検査は、下記に示すような場合、必要に応じて検査を行うものである。臨時検査を行う場合、(①) に準じた方法で行う。

- ・感染症又は (②) の発生のおそれがあり、また、発生したとき。
- ・(③) 等により環境が不潔になり又は汚染され、感染症の発生のおそれがあるとき。
- ・新築、改築、改修等及び机、いす、コンピュータ等新たな学校用備品の搬入等により (④) の発生のおそれがあるとき。

	①	②	③	④
a	定期検査	結核	風水害	化学物質過敏症
b	日常点検	結核	地震	揮発性有機化合物
c	日常点検	食中毒	風水害	化学物質過敏症
d	定期検査	結核	地震	化学物質過敏症
e	定期検査	食中毒	風水害	揮発性有機化合物

4 次の文は、机、いすの高さについて述べたものである。文中の (①) ~ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 工

机、いすの高さが児童生徒に適切であるかの確認は、これまで定期検査で行われてきた。しかし、多様な規格や (①) の机、いすの整備が進むとともに、児童生徒の (②) に合わせ 適宜簡易な適合評価により柔軟に対応していること、また、検査方法に用いる座高が平成26年の (③) の一部改正により、平成28年度以降、健康診断の必須項目から 削除されたことを踏まえ、毎学年1回の定期検査の項目として一律に定めるよりも (④) 対応する方が適切であることから、平成30年の学校環境衛生基準の一部改正において削除した。

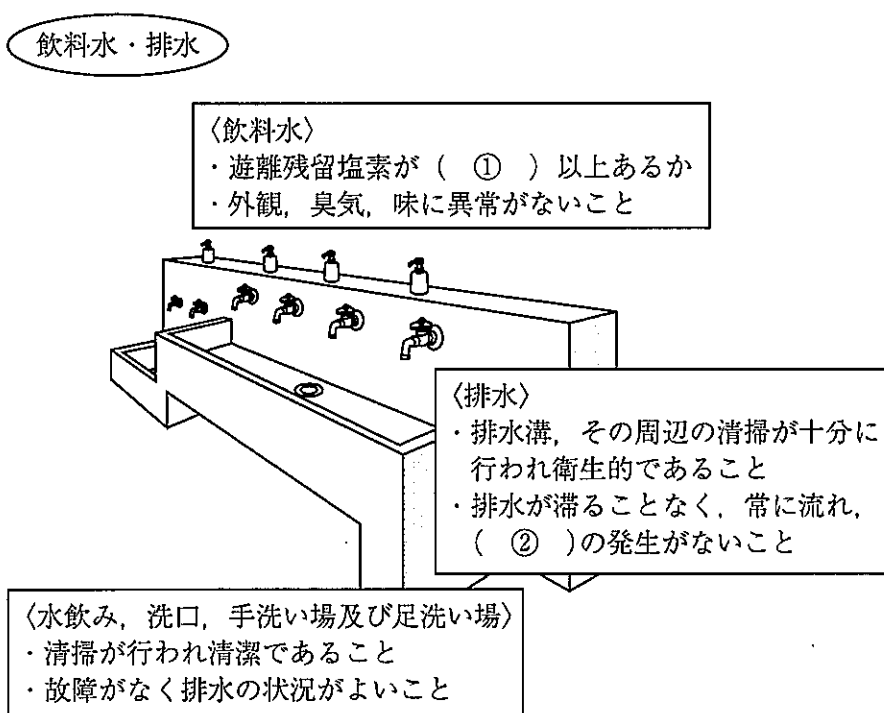
なお、(④) 対応するに当たり、以下に示す理想的な学習姿勢(省略)を参考に、児童生徒が生理的に自然な姿勢であるのかを日常的に確認し、その際、必要に応じて座高を測定し、机面の高さは (⑤)、いすの高さは下腿長であるものを配当することが望ましい。

	①	②	③	④	⑤
a	可変式	体型や成長	学校保健安全法 施行規則	日常的に個別に	座高 / 3 + 下腿長
b	移動式	身長と体重	学校保健安全法 施行規則	学期毎に定期的に	座高 / 4 + 下腿長
c	移動式	体型や成長	学校保健安全法 施行令	日常的に個別に	座高 / 4 + 下腿長
d	移動式	体型や成長	学校保健安全法 施行令	学期毎に定期的に	座高 / 3 + 下腿長
e	可変式	身長と体重	学校保健安全法 施行令	日常的に個別に	座高 / 3 + 下腿長

5 次の文は、日常における環境衛生に係る換気の検査方法等の解説である。このうち、誤っているのはどれか。次の a～e から一つ選びなさい。

- a 児童生徒は、授業の始めはもちろん授業の途中にも、換気が適切に行われているかどうかを点検する。
- b 休み時間のみならず授業中にも、窓の開放や換気扇等により換気を行い、同時に廊下側の上部の窓（欄間）は開けるようにすること。廊下側の窓が掲示物でふさがれていないか等についても点検する。
- c 冷暖房設備を使用する場合は、十分な換気が重要であるため、換気扇等の換気装置を運転する。換気装置がない場合は、定期的に窓を開けるなど換気を行う。
- d カーテンを閉めている場合には、換気を忘れがちになり、また、窓が開いていてもカーテンによって換気が十分に行われない場合があることに留意する。
- e 図画工作（美術）や理科等の授業で、刺激臭のあるもの、接着剤やシンナー等の揮発性の有機溶剤等を使用する場合は、換気を十分に行うように留意する。

6 次の図と文は、飲料水等の水質及び施設・設備について並びに日常点検で汎用されている点検方法の手順について示すものである。文中の (①) ～ (⑤) に該当する語句の組み合わせを、右の a～e から一つ選びなさい。



図

〔日常点検で汎用されている点検方法の手順〕

ア. 遊離残留塩素

- (ア) 末端給水栓で (③) 飲料水を流す。
- (イ) 残留塩素測定器の試験管に試薬 (DPD 試薬) を入れる。
- (ウ) その残留塩素測定器の試験管に標線まで飲料水を入れて振る。
- (エ) 直ちに飲料水の発色を比色板の標準色と比較する。
- (オ) 最も近い標準色の数値を読み取る。

イ. 外観 (色と濁り)

- (ア) 飲料水を試験管に取る。
- (イ) 試験管を (④) の上に置く。
- (ウ) 上方や側方から透かして見て (⑤) かどうか調べる。

ウ. 臭気, 味

- (ア) 飲料水を試験管に取る。
- (イ) 臭いは臭覚によって調べる。
- (ウ) 味は舌で確かめる (必ず吐き出し, 清浄な水で口をすすぐこと)。

	①	②	③	④	⑤
a	0.1mg/L	刺激臭	5分間	青紙又は赤紙	無色透明
b	0.3mg/L	刺激臭	2～3分間	青紙又は赤紙	異物がない
c	0.1mg/L	悪臭	2～3分間	白紙又は黒紙	無色透明
d	0.1mg/L	刺激臭	5分間	白紙又は黒紙	無色透明
e	0.3mg/L	悪臭	5分間	白紙又は黒紙	異物がない

第5問 次の1～3の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」（平成29年7月 文部科学省）において、不安や悩みへの対処について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解できるようにする。その際、（ ① ）に不安や悩みがあるという状態（ ② ）ことや不安や悩みに対処するために様々な経験をすることは、（ ③ ）のために大切なことにも触れるようにする。

不安や悩みへの対処として、（ ④ ）運動や（ ⑤ ）を取り入れた呼吸法などを行うことができるようにする。

	①	②	③	④	⑤
a	同世代	を理解する	心の発達	体ほぐしの	腹式呼吸
b	自己の心	に気付く	心の発達	体ほぐしの	深呼吸
c	自己の心	を理解する	心の発達	外遊び	深呼吸
d	自己の心	に気付く	人間理解	外遊び	腹式呼吸
e	同世代	を理解する	人間理解	体ほぐしの	深呼吸

- 2 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」（平成29年7月文部科学省）において、がんの予防について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

イ

がんは、異常な細胞であるがん細胞が（ ① ）する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること（ ② ）ようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること（ ② ）ようにする。

なお、生活習慣病の予防、がんの予防の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで（ ③ ）異常を発見できることなどを取り上げ、（ ④ ）についても触れるように（ ⑤ ）するものとする。

	①	②	③	④	⑤
a	増殖	に触れる	早期に	疾病の治療	配慮
b	肥大	に触れる	定期的に	疾病の回復	努力
c	増殖	を理解できる	早期に	疾病の回復	配慮
d	肥大	を理解できる	早期に	疾病の治療	配慮
e	増殖	を理解できる	定期的に	疾病の治療	努力

- 3 次の文は、「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」（令和2年3月 文部科学省）において、保健教育の推進とカリキュラム・マネジメントについて述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

学校教育においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等（ ① ）な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき（ ② ）かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと、いわゆる、カリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。こうしたことを踏まえて、保健教育においても、保健体育科保健分野、（ ③ ）、総合的な学習の時間など関連する教科等がそれぞれの特質に応じて行われた上で、相互を関連させて指導していく必要がある。その際、生徒の発達の特質や教育活動の特質を踏まえて、個々の生徒が抱える（ ④ ）を受け止めながら、その解決に向けて、主に個別の会話・面談や言葉がけを通して指導や援助を行う（ ⑤ ）といった個別指導を関連させて、生徒の発達を支援することも重要である。

	①	②	③	④	⑤
a	系統的	継続的	学校行事	課題	ガイダンス
b	横断的	組織的	学級活動	不安	カウンセリング
c	系統的	組織的	学級活動	悩み	健康相談
d	横断的	組織的	特別活動	課題	カウンセリング
e	横断的	継続的	特別活動	不安	健康相談

